の長方形に白線を以て仕切りその内部に南北二列に大白布を各三箇所づゝに敷き中央には丁字形に同じく白布を置く 飛行機は此の丁字形を眼がけて着陸するが風向によりて丁字を反對の方向におく時にて北風なれば南方より南風なれば北方より下舵をとりて着陸すべく南北の何れよりか着陸するを以て南北には一切群衆を入れず、東西にのみを觀覧場に充て頑丈なる竹垣を以て隔むべ

ダヌンチオ氏 衣裳代 支拂請求を受く

ダヌンチオ氏は裁判所より一九一三年上場されたる氏の作ル・シプル・グオイユー劇に供給されたる三着の衣裳代價二百五十法の支拂請求を受けて裁判所は原告衣裳師ボアレーの爲め劇場支配人に對して右の金額支拂保證を命じたり（國際羅馬五日發）

れたり其の齎し行きたる通信は一九一八年六月四日附にかゝり其の文面に曰く「吾人は今尚は支持し居るも敵は瓦斯及砲彈を以て猛烈に攻撃す之は皆我が要塞に遣れる最後の傳書鳩なり救援最も急を要す レーナール」尚同傳書鳩は左の褒狀を得たり（國際巴里五日發）

ヴォー要塞の勇敢なる防禦に對する唯一の通關たる此の傳書鳩は同要塞よりの最後の報告を齎したり其の毒瓦斯に惱まされたる爲め到着せし時は既に瀕死の狀態に在りたりと

罷工から飢に泣く妻子の群
製鐵所の購買會でも市中でも 日用品を一つも賣つてくれぬ
女房達が手を繋いで勞友會本部に窮狀を訴ふ

九日午後十數名の女房團が八幡の勞友會本部へ滿面憂愁の色を漂はして

救助方を 求めて來た、此の女房團は今回の製鐵所同盟罷工に與し其の主謀者と認められ治安警察法違反者として八幡署の取調を受け次いで小倉區裁判所の豫審に附せられた勞友會幹部員山田、吉村、堀井、安藤、其他檢擧せられた勞働者の家族で彼等の凡ては悲歎の涙に臉を

泣き腫して「私達はもう今日から依託する外はありません、それは私達の主人が今度の罷工事件で拘引された爲め是れまで組合員として日用品を買つて戴いてゐました製鐵所の購買組合から私達へは何一つ賣つて戴くことが出來なくなりましたからです又市中の何處の店へ参りましても私達の生活に必要な日用品を賣つてくれません

米も味噌も、醬油も買ふことが出來なくなりました思ひも寄らぬ生活の迫害に遭ひまして、此の通り大勢の家族が途方に暮れて居ります、どうか此の危い飢の淵に突き落されやうとしてゐる私達に同情を寄せられてお救ひを願ひます」と代る〲泣いて居た、此態を見て勞友會本部では見殺しにすることは出來ない、どうかして救助の道を講ぜなければと彼等を慰めて一應引取らしめた多くの

勞働者は これを知つて『日用品を賣つてくれないとはあまり酷い、一種の迫害である』と憤慨する者と『こんなことになつては惟々妻子を餓ゑさす樣なものだマア〱穩かに働くより外致方がない』と諦めをつけてゐるものとがある、罷工の裏面に起つた悲劇は此の外にもまだ澤山ある

警官憲兵疲勞の極
相次で倒れ入院
職工作業平常に復す

五日以來製鐵所内に漂ひたる不穏の氣は、豫算案に衆議院を通過したる報を聞き來る四月より幾分増給の見込み立ちたると、構内の警戒嚴重にして手も足も出でざる狀態にあるに依り次第に緩和され出勤職工の數も漸次復舊し九日夜出勤者は二千九百六十七人に達し缺勤者三百七十七人良好の成績を示し十日朝の出勤者は職工一萬三百十七人、人夫五千九十三人にて千九百四十四人の缺勤者あれど殆ど平日と異ならず其後の狀況も前日は各工場の半が怠業の姿にありしも漸次作業し始め殆と平日と異ならざる程となれり、然れど警戒は依然嚴重を極め居れり、罷業勃發以來不眠不休にて警戒の任に就き居りし警官、憲兵隊は構内の空氣緩和と共に幾分張り詰めたる氣も弛みしものか倒るゝ者少からず何れも構内病院に收容手當を加へ居れり因に安藤檢事正は十日朝より製鐵所に出張し各工場の職工を參考人として取調を行へり又齋藤福岡縣警察部長は十日午後一時勞友會、同志會、友愛會幹部を八幡署に招き新聞記者立會の上意見の交換を行へり（八幡電話）

東京洋服組合守屋吉瀬氏起つて開會の趣旨を述べ次いで今井嘉幸博士を聴衆に紹介す、黒のオーバコートに黒の中山帽を手にせる瀟洒たる姿の**今井博士**は徐ろに登壇先づ政府が各派の普選運動を遮るべく急遽普選案の上程を十日に繰上げし卑劣を罵り後ち佛蘭西における種々の例を引いて碧空にかゝる虹の如き氣を吐き日本勞働の**山本龜次郎**小石川勞働の**安達和**純勞會の**入澤吉次郎**氏等の辯士に引續き數氏が雄辯を揮ひたる後ち『普選の即時實行治安第十七條の撤廢を期す』との決議文を可決し**遠山君**が直に該決議文を携へて議會

の巡査六十餘名嚴重に警戒す

應援を差止められた女優は自動車を飛ばして

應援して居た、午後一時半政友會本部に着し

「政友會を撲滅せよ」「民衆の敵」

と怒號するものがある、政友會本部では大山愛宕署長が來て昇宿した民衆の鎭撫に努めたが結局中村

東京市電……來待遇改……涉中なり……集合せし……勞働組合の……造り電氣……局の中……長、平井……たるが拒……せる拆……

入……

明石市大……會員職工……工業學校……町明石郵……の兩名は……湊病院の……たる入院……田宇三郎……襲ひ何れ……長秋は拳……と命かな……に迫りし……呼び起し……其の侍逃……午過明石……日午後神……

株式引跡氣配

後場引跡は大體變らざる氣配にて午後四時頃の現物は大株四百三十三圓新四百二十七八圓新東四百七十八圓

中華起業は 午後更に七圓高

十二圓五十錢より三圓五十錢高を唱へつゝありしが……當らざりしも戸田商店の買望みありマバラ提灯買もありし爲め商內は小口ながら相應頻繁に行はれたが引跡氣配は流石に一息風情となり四時……

▲二限（賣）國府、關口二十枚（買）井上、中川二十枚 ▲三限（賣）伊藤秀三十五、齋藤、渋三十、日比野二十枚（買）中川八十、鋼……

……（買）黄志六十、中川三十五、前長、……井三十、山田二十五、野口、川畑三……枚 ▲六限（賣）……山田八十五、島津五十五、……

中島二十五、山……五、前藤……